

表. 糖尿病腎症各期(第2期以降)における看護のポイント(日本糖尿病教育・看護学会)

第1版:平成24年5月21日

| | 腎症の病期 | 第2期 | 第3期-A、第3期-B |
|---|-----------------------|---|--|
| | 支援目標 | 腎症第2期は、療養状況によっては病期が改善する時期(可逆期)である。したがって、腎症第1期への改善もしくは第2期の維持という治療目標を達成するために、継続可能な療養生活の調整を図ることを目標にする。 | 腎症第3期は病気の進行に伴って求められる療養行動の変化に対する患者の戸惑い(時に医療への不信感)が出現しやすいことから、精神的支援が重要となる。この時期は病期を維持し、患者の生活にあった療養方法の提案と実践方法を患者とともに考え、支援することに目標をおく。 |
| 1 | チーム内の連携・調整 | <ul style="list-style-type: none"> 腎症第2期を診断されていない場合には主治医へ働きかけをする。 尿中アルブミン・eGFRなどの検査実施状況および結果を確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> 腎症の悪化に伴い患者が病気の進行をどのように受け止めているのかをチームで共有しながら、患者の個性に合わせた目標を設定し、チーム全体で支援できるように調整する。 検査結果と患者の生活状況(カリウムの摂取状況、必要以上の糖質制限やエネルギー不足、たんぱく制限、塩分摂取状況、飲水状況など)を確認し、個性に合わせた必要な栄養指導につなげる。 |
| 2 | 病気(糖尿病腎症)と生活行動との関連の説明 | <ul style="list-style-type: none"> 自覚症状に乏しい時期であり、療養行動に関心が向かない患者に対し、病状の悪化を防ぎ改善可能な時期であるという病気に関する説明をするとともに、療養への意欲につなげられるよう支援する。 受診が継続できるよう、その必要性を説明する。 糖尿病の合併症について、どの程度説明され、理解できているのかを確認し、合併症に対する患者の思いを確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> 自覚症状に乏しい患者には病気の状態を説明し、必要な療養行動について理解が得られるよう支援する。 現在の病期を長期にわたり維持できるように、療養への意欲につなげられるよう支援する。 |
| 3 | 具体的な療養行動の相談 | <ul style="list-style-type: none"> 個々の生活状況を確認しながら、糖尿病とともに今後長期にわたり療養生活をするために、実施可能な療養行動を患者とともに見出しながら、療養生活を患者の生活に合う方法で段階的に支援をしつつ、成功体験につなげられるよう支援する。 | <ul style="list-style-type: none"> 望ましい療養行動(食事療法・運動療法・薬物療法など)の変化を強いられる時期であり、具体的な療養行動を示しながら、生活の中で実施可能な方法を提示したり患者とともに考えたりして療養行動の変化を支える。 腎症の悪化に伴い、さらなる腎症悪化の要因となる感染性疾患の予防行動やシックデいの対策がとれるよう支援する(予防接種、日頃の予防行動など)。 |
| 4 | セルフモニタリング指導 | <ul style="list-style-type: none"> 療養生活の中で、家庭血圧測定・体重測定・(必要時、血糖測定)ができるよう支援する。 受診時の検査結果が糖尿病の状態をどのように示しているのか、セルフモニタリングのデータと関連づけて説明する。 患者が自身の身体状況をとらえられるよう、血圧・体重測定データと生活状況を照らし合わせたり、受診時の検査結果と生活状況、微細な身体的変化を照らし合わせ支援する。 | <ul style="list-style-type: none"> 療養生活の中で、家庭血圧測定・体重測定・血糖測定ができるよう支援する。 受診時の検査結果が糖尿病の状態をどのように示しているのか、セルフモニタリングのデータと関連づけて説明する。 病期の進行を遅らせるためにもセルフモニタリングの実施とその意義が理解できるように支援する。 腎症の悪化に伴い、さらなる腎症悪化の要因となる感染性疾患を早めにキャッチできるよう支援する。 |
| 5 | 症状管理(症状マネジメント)指導 | | <ul style="list-style-type: none"> 患者が自身の身体状況をとらえられるよう、血圧・体重測定データと生活状況を照らし合わせたり、受診時の検査結果と生活状況、身体的変化を照らし合わせ、支援する 病期の進行に伴い合併する溢水状態の管理(飲水量管理、浮腫の出現の有無・呼吸状態の観察など)ができるよう支援する。また、これらの症状が悪化した際の迅速な受診行動への判断ができるよう支援する。 腎症の悪化に伴い、さらなる悪化の要因となる感染性疾患に罹患した際の身体的変化が理解でき、療養行動につなげられるよう支援する。 |
| 6 | 戸惑いへの対応 | | <ul style="list-style-type: none"> 腎症第3期は病気の進行に伴い、時には病状の説明に十分納得していない患者がこれまでの医療への不信感を抱きやすい時期である。治療方法や食事療法・運動療法が、今までは大きく変わることへの「戸惑い」や、今後さらに進行した場合には腎不全期・透析療法期を迎えなければならない不安も混在し、療養生活に前向きに取り組めなくなる場合もある。このような時期に、療養行動の変化を急がせることで、精神的な負担感が増強しやすいため、患者の心理状態を十分把握しながら、チーム内で患者の状態と目標を状況に応じて調整しながら、支援を進めていく。 |